

機関番号：45412

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19530173

研究課題名（和文） 奢侈と文明—18世紀イタリアからの視角—

研究課題名（英文） Luxury and Civilization: a case study of the Eighteenth-Century Italy

研究代表者

堀田 誠三 (HOTTA SEIZO)

福山市立女子短期大学・生活学科・教授

研究者番号：40144109

研究成果の概要（和文）：イタリア啓蒙思想のコスモポリタンな性格は、本研究において奢侈論にかかわる以下の3点の解明をつうじて、明確となった。第1に、奢侈を文明の進歩の原動力とする見解の根拠に『百科全書』序論が利用されていること、第2に、ヘルヴェシウスの見解からの示唆もあって、奢侈を社会的剰余ととらえることで、奢侈と文明という問題設定のなかで剰余の社会的分配にかんする議論が可能となったこと、第3に、奢侈の概念は社会的剰余の消費から蓄積を見渡す用語として、イタリア経済思想史において重要であったこと、である

研究成果の概要（英文）：The cosmopolitan feature of the Italian enlightenment is made clear in three points. Firstly, the introduction of Encyclopédie gave the basis of the perspective that luxury is the motive power of the progress of civilization, secondly, Helvétius suggested the idea of luxury as social surplus and this idea led the Italian enlightenment thinkers to the issue of distributing surplus products in a society, thirdly, with regard to the history of economic thought in Italy, the the idea of luxury was essential as the linkage between consumption and accumulation of the social surplus.

交付決定額

（金額単位：円）

年度	直接経費	間接経費	合計
2007年度	500,000	150,000	650,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：イタリア思想史

科研費の分科・細目：経済学・経済学説・経済思想

キーワード：18世紀イタリア、奢侈、道徳論、百科全書、ミリーツィア、マルサス、カニヤツツイ

1. 研究開始当初の背景

(1) 我が国では、奢侈論は経済思想史の分野において、ブリテンを主要な対象として、消費需要による商品化の促進、いかえれば市場形成論の視角からとりあげられてきた。

(2) イタリア啓蒙の奢侈論については、

Wahnbaeck の著書があるが、これも奢侈論に含まれる文明論的・道徳論的要素をを夾雑物としてとらえ、『国富論』の段階において経済学に純化されることで、奢侈論という問題設定が克服されるという見解をとっている。

(3) 研究代表者の堀田は、18世紀イタリアにおける道徳理論の世俗化という文脈のなかで、2004年の日本18世紀学会大会共通論題「奢侈論について」における報告で、18世紀イタリアの奢侈論の動向の概観を与えた。

## 2. 研究の目的

(1) 18世紀イタリアにおける奢侈論の展開過程を、ヨーロッパの思想界での交流に留意しつつ検討し、イタリア啓蒙のコスモポリタンな性格を解明する。

(2) イタリアにおいて、奢侈論が商業化と文明化をめざす啓蒙的改革の試みと連動していた具体的様相を、イタリア半島における地域的偏差をふくめて、解明する。

## 3. 研究の方法

(1) 教皇国家の首都ローマでの奢侈論と啓蒙的改革との関連を、ミリーツィア (F. Milizia, 1725-98) の著作を素材に、検討する。

(2) 経済的剰余の社会的存在形態という視点から奢侈をとらえ、同じくミリーツィアのテキストに即して、造形芸術の社会的有用性と美の観念の関連を把握する。

(3) ナポリ王国につき、イタリアへの古典経済学の導入に大きな役割をはたしたカニャッツィ (L. de Samuele Cagnazzi, 1764-1852) の奢侈論を検討する。

(4) イタリアより研究者を招聘し、我が国の研究者とともに、比較史的観点から構成された国際研究集会を開催する。

## 4. 研究成果

(1) 2007年度 (平成19年度)

日本18世紀学会の共通論題『『百科全書』研究の新天地』において、『『百科全書』イタリア版について—オーベールの手紙から—』という報告を行った。『百科全書』イタリア版は、ルッカ版とリヴォルノ版があるが、報告では直接にはリヴォルノ版の出版事情に焦点をあてた。その成果は、直接には①リヴォルノ版は、トスカナ大公レオポルトの庇護の下におこなわれたから、トスカナ大公国の政治と文化の関連についての見通しが得られたこと、②奢侈については、『百科全書』の当該項目の重要性が確認できたこと、③18世紀イタリアでは例外的な繁栄する国際貿易都市というリヴォルノの独自性が、出版の企画者オーベールの出自、活字や用紙の外国からの調達などの面から明らかとなったという3点である。さらにリヴォルノ版の出版

はルッカ版やイヴェルドン版 (スイス) と競合関係にあったから、副産物として、ルッカ版については、リヴォルノとは対照的に、18世紀においても独立を保っていたルッカ共和国の独自性、ルッカ版の出版者は宗教改革にさいしてローマ教皇庁の弾圧をうけてジュネーヴへ移住した名門貴族の同族であったこと、イヴェルドン版の出版者もまた、結婚問題を契機にナポリからスイスへ逃亡し、カトリックからプロテスタントに改宗したという経歴を持つことが確認された。

以上のように18世紀イタリアという視角からは、時間的空間的に広範囲な見通しが得られることが確認され、奢侈論については習俗の腐敗という論点したがって実践道徳の基盤としての宗教と密接な関連を持つという事実が明らかとなった。この点との関連は、ともにイタリアを舞台とする大黒俊二と Tili Wahnbaeck の著書の書評において留意したところである

(2) 2008年度 (平成20年度)

2009年度 (平成21年度) 開催予定の国際研究集会にトリノ大学のアルベルト・ネ教授を招聘する件につき内諾を得て、面談の上、教授の報告内容を、フランスとアメリカとの思想の交流のなかで、重農主義の奢侈論の政治的意味が変化する過程の解明にあてるとの合意にたっした。アルベルト・ネ教授の協力をえて、①エイナウディ研究所図書館所蔵のカニャッツィ『プリア王国人口論 (Saggio sulla popolazione del Regno di Puglia)』第一部1820年の原典調査および電子コピーの入手、②トリノ大学経済学部図書館所蔵のミリーツィア『公共経済学 (Economia pubblica)』1798年の原典調査および電子コピーの作成、③トリノ国立図書館所蔵の『新文献 (Novelle letterarie)』誌、1758年、1764年、1767年、1770年分の原典調査と必要部分の電子コピーの作成をおこなった。またトリノ大学にて開催された国際研究セミナー「経済作家を研究する：方法の問題」のセッションの司会をおこなった。

前年度に入手したミリーツィア『著名な建築家の生涯 (Le vite de' piu celebri architetti)』1768年、の解析を進めるなかで、『百科全書』序論からの、奢侈が文明の進歩の原動力であるという趣旨の文言の引用を確認し、この点からも本研究の問題設定の重要性が裏付けられた。上記のカニャッツィ『プリア王国人口論』の分析から、19世紀にはいっても、古代から近代までの歴史の盛衰の説明原理として奢侈論が機能していたことを確認できた。

(3) 2009年度 (平成21年度)

経済学史学会第73回全国大会セッション「マ

ルサス主義の国際的普及」において「イタリアにおけるマルサス受容の一断面」と題する報告をおこなった。この報告では奢侈論という問題設定が 19 世紀にいたっても、商品生産の起動力＝消費から資本蓄積＝節約まで見渡す概念として、経済学において機能していたことを確認した。

トリノ大学のマヌエラ・アルベルトーネ教授を招聘し、2009 年 9 月 3 日に、京都大学人文科学研究所において講演会を開催した。論題は「フィジオクラットの権力分立についての考察 La notion de séparation des pouvoirs dans la réflexion des auteurs physiocratiques」であり、王寺賢太人文科学研究所准教授の司会および通訳でおこなわれた。つづいて 9 月 5 日には名古屋大学において、科研費研究「啓蒙と東アジア」（課題番号 18320025）の協力をえて、国際研究集会「奢侈と文明 Luxury and Civilization」を、長尾伸一名古屋大学教授の司会のもとに、開催した。水田洋(日本学士院)「フランコ・ヴェントゥーリについて On Franco Venturi」、橋本周子(京都大学)「開かれた社会か閉じられたサロンか？ ブリア=サヴァランの『味覚の生理学』の読解 Open Society or Closed Salon? Readings into Brillat-Savarin's "Physiology of Taste"」、堀田誠三(福山市立女子短期大学)「F. ミリーツィアにおける奢侈と建築 Luxury and Architecture in F. Milizia」、マヌエラ・アルベルトーネ(トリノ大学)「奢侈と民主主義 B. フランクリンとフランス経済思想の相互交流 Luxury and Democracy: A Mutual Exchange between B. Franklin and the French Economic Thought」、渡辺浩(東京大学)「奢侈、商業、徳 徳川日本における政治的知的論争 Luxury, Commerce and Virtue: Political and Intellectual Debates in Tokugawa Japan」の報告がなされ、使用言語は英語であった。報告と討論をつうじて、奢侈論の普遍性が確認され、そのうえでイタリアと日本の若手研究者を中心とする研究交流への展望をえた。

2007 年度(平成 19 年度)日本 18 世紀学会の共通論題での報告をまとめて、論文「『百科全書』リヴォルノ版について—オーベールの手紙から—」を発表し、奢侈が文明の進歩の原動力であるというミリーツィアの確信の根拠となった百科全書のイタリアへの受容過程を、その出版史の側面から解明した。

#### (4) 2010 年度(平成 22 年度)

日本 18 世紀学会第 32 回全国大会 共通論題「趣=味」において「イタリアにおける趣味論の系譜」の発表をおこなった。ここでは奢侈論の射程が、美的・道徳的判断としての趣味判断にまで達することを、イタリアの事例

をもって明らかとした。

また前年度の国際研究集会での発表を簡略化した日本語での報告を「奢侈と文明—18 世紀イタリアの視角から」と題して、経済学史学会西南部会第 109 回例会においておこなった。この過程をへて、現在、論文「F. ミリーツィアにおける奢侈・建築・経済学」が印刷中である。この論文では、第 1 に、奢侈を社会的剰余ととらえることで、奢侈と文明という問題設定のなかで、剰余の社会的分配にかんする議論が可能となったこと、第 2 に、社会的剰余の分配という観点がミリーツィアにおける、建築と経済学の出会いの場を設定するものであったことを立証している。他に 2009 年度(平成 21 年度)経済学史学会大会での報告は、「イタリアにおけるマルサス『人口論』受容の一断面」永井義雄・柳田芳伸編『マルサス人口論の国際的展開 19 世紀近代国家への波及』、昭和堂、として 2010 年 12 月に刊行され、2009 年度(平成 21 年度)に公表した論文「『百科全書』リヴォルノ版について—オーベールの手紙から—」は、18 世紀科学研究会編『啓蒙と東アジア The Enlightenment and East Asia』、2010 年 12 月に再録された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

①堀田誠三、『百科全書』リヴォルノ版について—オーベールの手紙から—、福山市立女子短期大学紀要、第 37 号、2010 年、29-36、査読有

〔学会発表〕(計 5 件)

①堀田誠三、イタリアにおける趣味論の系譜、日本 18 世紀学会第 32 回全国大会 共通論題「趣=味」、2010 年 6 月 27 日(日)、新潟大学 脳研究所

②堀田誠三「奢侈と文明—18 世紀イタリアの視角から」、経済学史学会西南部会第 109 回例会、2010 年 7 月 3 日、広島経済大学立町キャンパス

③堀田誠三、Luxury and Architecture in F. Milizia、国際研究集会「奢侈と文明」、2009 年 9 月 5 日、名古屋大学

④堀田誠三、イタリアにおけるマルサス受容の一断面(セッション マルサス主義の国際的普及)、経済学史学会第 73 回全国大会、2009 年 5 月 31 日、慶應義塾大学

⑤堀田誠三、『百科全書』イタリア版について—オーベールの手紙から—(共通論題『百科全書』研究の新地平)、日本 18 世紀学

会第 29 回全国大会、2007 年 6 月 17 日、東京工芸大学

〔図書〕(計 3 件)

①堀田誠三編、マヌエラ・アルベルトーネ、橋本周子、堀田誠三、渡辺浩、福山市立女子短期大学、奢侈と文明 Luxury and Civilization、2011 年、28-36

②「福山市立大学開学記念論集」編集委員会編、奥山健二、横田茂、前山総一郎、堀田誠三他の共著、児島書店、都市をデザインする福山市立大学開学記念論集、2011 年、315-333

③18 世紀科研研究会編、高橋博巳、鷺見洋一、堀田誠三他の共著、金城学院大学、啓蒙と東アジア The Enlightenment and East Asia、2010 年、84-93

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況(計◇件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

堀田 誠三 (HOTTA SEIZO)

研究者番号：40144109

### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者  
( )

研究者番号：